

森林環境譲与税を活用した取組

地球を潤す森林環境保全へのプロセス

岡山県鏡野町

Vol. 7

新たなセンターが核となった

森林づくりの推進

1 鏡野町の現状

鏡野町は、岡山県の北部に位置する県内最大面積の町で、人口1,2062人、面積は41,968haです。そのうち森林面積は、36,278ha(町面積の86.4%)で、「森といで湯と田園文化の里」をキャッチフレーズにまちづくりを進めています。町内の人工林率は70.2%で、戦後から高度経済成長期にかけて植えられたスギ、ヒノキが多く、木材として利用が可能な時期を迎えています。

2 「鏡野町森林づくりセンター」の活動

このように、鏡野町では、平成

27年度に「鏡野町森林づくり協議会」を設置し、以降、毎年、町に対して森林づくりの提言書を提出しています。平成28年度には、提言書をもとに、森林づくりの基本理念や関係者の役割、森林づくりを推進するための施策等を定めた「鏡野町森林づくり条例」を制定しました。令和元年8月には、同条例に基づき、住民の森林に関する総合的な窓口となる「鏡野町森林づくりセンター」を産業観光課内に開所しました。

同センターでは、町の林務担当職員4名、地域林政アドバイザー1名、作州かがみの森林組合職員1名の6名体制で、森林環境譲与税を活用しながら、森林づくりに関する様々な活動に取り組んでいます。



鏡野町森林づくりセンターの開所

3 森林環境譲与税を活用した取組

本町では、森林環境譲与税(令和

3年度譲与額…59,561千円)を活用して、林業就業者の育成、森林経営管理制度の推進、木材流通の効率化、町産材の利用促進などの多様な取組を行っています。

(1) 林業就業者の育成(令和3年度 決算額…1,425千円)

本町の林業就業者は106名、町内林業事業体は5団体あります。利用可能なスギ、ヒノキの増加や、今後の森林経営管理制度の円滑な推進を踏まえ、鏡野町内で森林の管理を適切に行える担い手の育成が急務となっています。

このため、本町では、町内に住所を有し(又は転入予定)、新たに林業に就業した方を対象に、以下のような手厚い支援を行っています。

- ① 引越支援金(上限20万円1回限り)
- ② 家賃支援金(月額上限5万円以内 実費分 就業後最大12ヶ月)
- ③ 支援一時金(20万円 就業6ヶ月経過後に支給 1回限り)
- ④ 雇用確保支援金(1人あたり月額上限13万円 就業から12ヶ月)
- ⑤ 育成指導支援金(1人あたり月額定額5万円 就業から12ヶ月)

※①～⑤は他事業での助成がある場合その差額を支給。

令和3年度には、新規就業者1名、町内認定事業体1団体に助成を行いました。



新規就業者に関する支援案内用パンフレット

(2) 森林経営管理制度の推進（令和3年度決算額…404千円）

森林経営管理制度を推進するため、町内全域を6地区に分けて、令和元年度から順次、森林所有者に対する意向調査を実施しています。調査票の回収後は、地域林政アドバイザーが現地調査を行い、箇所に施業の実施方針を決定しています。これまで、5,341ha（対象者1,069名）で意向調査を実施し、3,418haの回答がありました。

回答者のうち、937haが町への委託を希望しました。

今後、委託希望の回答があった箇所を対象に、集積計画や配分計画を策定して、森林整備に繋げる予定です。



地域林政アドバイザーによる現地調査

(3) 木材流通の効率化（令和3年度決算額…30,700千円）

町内の原木の集積場は、小規模で分散しており、木材を搬出する林業事業体は、複数の集積場に木材を運搬しなければならず、非効率な状態となっています。このため、本町では、町内の集積場を1ヶ所に集約するプロジェクトを進めています。これにより、検知や市場までの運搬等に要する林業事業体の負担が軽減されるとともに、合板会社やバイオマス、建材・住宅メーカー等との一括取引、町内公共建築物や新築住宅に町産材を利用する建築業者との直接取引が進むことが期待できます。

既に、令和3年度から集積場の造成を開始しており、令和5年度から供用開始の予定です。

(4) 町産材の利用促進と普及啓発（令和3年度決算額…5,092千円）

本町では、町産材の良さを知り、故郷への愛着や地域の繋がりを深めてもらうため、町内の中学校で町産ヒノキを使用した学習機を導入しています。生徒たちの卒業時には、在校中に利用したネームプレート付きの天板部分を贈呈しています。令和3年度には、町内7つの小学校で、6年生の児童123名を対象に、自分たちが中学校で使用する机を組み立てるワークショップを開催しました。

また、乳幼児期から木に親しみを持ってもらうため、令和3年度から、町産材を使用した幼児用玩具等（ファーストイ）を贈呈する事業を開始しました。令和4年6月までに、34名の乳幼児に贈呈しており、「木の温かみを感じる」「木製なので、安心して遊ばせられる」との声をいただいています。



幼児用玩具（ファーストイ）

(5) その他の取組

このほか、本町では、森林環境譲与税を活用して、自然災害等により被災した作業道の修繕に対する補助や、航空レーザー測量等のデータを活用した森林資源解析を行っています。今後は、解析結果から得られる樹種別の森林資源量や詳細地形、内路網の位置等の情報を活用して、現況に応じた森林のゾーニングや森林づくりの方針（山林のグランドデザイン）を策定する予定です。

4 今後の取組

以上のように、本町では、鏡野町森林づくりセンターを核に森林づくりを推進しています。

今後、森林環境譲与税を有効に活用して、山林のグランドデザインを踏まえた森林整備を行って参ります。



ワークショップの様子